

日曜日の田植え

東広島市立上黒瀬小学校 四年 平山大智

六月、今年もぼくの家、の田んぼで田植えをしました。毎年お父さんの仕事がお休みの日曜日にします。お父さんが書いた農業ノートの田植えのページには、毎年真っすぐ植えると目立つように書いてあります。去年は竹のぼうで田んぼのどろに線を引いて、それを目印にする作戦でした。お父さんは近くの線を見すぎて、ハンドルを細かく右左と動かしてしまったと反せいしていました。お父さんが「大智、ちょっとその場に立って。」と田んぼの向こうはしから両手を口にそえてメガホンみたいにして言いました。ぼくは体を、お父さんに向けて、じっと立っている、ぼくを見ながらこちらに田植え機を進めて向かってきました。ぼくにたどり着いてすぐに後ろをふり返ってうれしそうな顔をしました。お父さんの後ろには真っすぐ苗が植えられていました。今年の作戦は大成功です。きれい

な列が一本ずつふえていくのを見ながら、田植え機が通る所ににげたカエルをつかまえては、安全な所にかしました。クワガタのはさみみたいな歯をいねの葉にくいこませて食べる虫がいます。これをカエルは食べてくれます。でもカエルはカメやサギに食べられます。しまいます。食物連鎖を作ってすごいなとぼくは、いつもこの田んぼで思います。ふと、一本だけプカーンと水にういている苗を見つけました。おばあちゃんに見せました。

「これ一本でどれくらいのお米がとれる？」

「あー、機かいが植えそこねたんじゃね。こ

れは、お茶わん一ぱい分のご飯になるよ。」

と教えてくれました。まわりを見ると根元を

しっかりと土に固定してもらって立っている苗

の間に、一本苗が他にも数本ういていました。

ぼくはそれを拾っては、

「茶わん一ぱい、二はーい。」

と言いなから一本ずつ手で植えました。お父

さんを見守っていたおじいちゃんか、

「一本じゃなくて、束にして植えたら少しの場所で大くさん米かなるよ。でも束にしすぎたら栄養が太い根元に取りられすぎて米つぶが小さく、少なくなったりするんよ」と教えてくれました。これはベテランの知恵だなと、ぼくは深くうなずきました。田植え機にも、束の量を調節するボタンがついていそうです。お父さんも、おじいちゃんも、すぐく考えながら植えているんだなと思いました。ぼくは一本一本ういた苗を束にして、

植えてある苗と苗の間に列をみださないように植えました。八月の終わりごろ、ぼくの苗も立っばに成長して緑のほをつけています。学校の帰り道にいつもチェックをしている他の家の田んぼはもう、いねかりが終わりました。ぼくは何だかソワソワします。でもおばあちゃんか毎年作るつやつやの新米塩おにぎりが、もう少しで食べられると思うと、よだれが出そうになります。ぼくの田んぼが金色に光るのが楽しみです。